DENSO

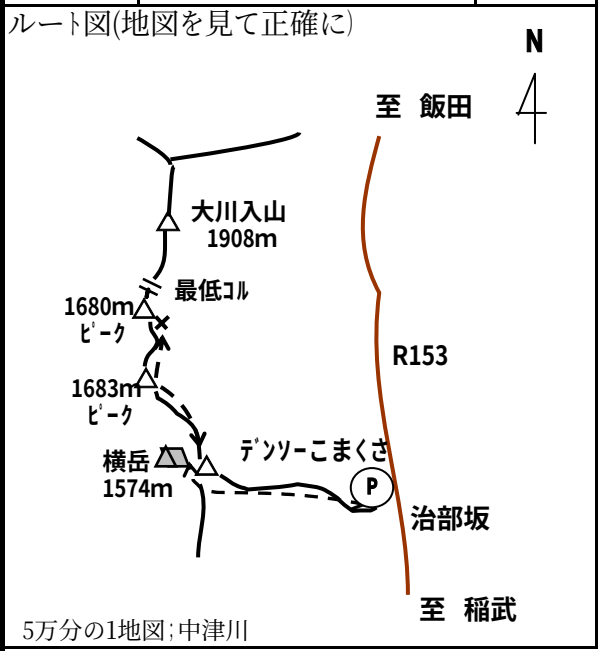
12月度　ＯＢ個人山行報告書

報告者;渡辺(勝)　　報告日;06.01.04

山域	奥三河	山行日	05年12月29日(木)～ 05年12月30日(金) (　1泊　2日)	参加 ﾒﾝﾊﾞｰ	CL;渡辺勝利 塚本英吾
山名	大川入山				
山行目的	積雪期の奥三河地域研究				

配布先
集会:　枚
山行ﾘｰﾀﾞ;
原紙;集会担当者

ルート図(地図を見て正確に)



5万分の1地図;中津川

12/29(快晴)		12/30(曇り)	
8:30	豊田(渡辺宅)発	6:30	起床
↓		↓	
10:10	治部坂	8:05	テント場発
10:30	こまくさP	↓	
↓		11:00	最低ｺﾙ手前
13:15	横岳	11:15	引き返し点
↓		↓	
13:45	テント設営完	13:25	テント場着
		↓	
		14:30	撤収、下山開始
		↓	
		15:30	こまくさP着
		↓	
		16:30	宿り木の湯発
		↓	
		18:30	豊田(渡辺宅)着

＜山行記録＞

『冬の大川入山の雪の中で一夜を明かしてみたい』とかねてから思っていたことが、塚本先輩との山行で実現できたことで目的の9割は達成した。忘れかけていた冬山の楽しさも厳しさも思い出し、大満足の山行となった。

しかし、思わぬ深雪で登頂を果たせず、残りの1割は次回への課題として残す結果となったので、この結果を教訓として生かし、次は登頂を果たすことを目標に再挑戦したいと思う。

12月30日

R155の根羽を過ぎると道路の温度表示が-7℃を示し外気はかなり低いようだが、雲ひとつない快晴でまさに登山日和である。道路事情もよく、定刻には治部坂のデンソーこまくさPに到着しすぐに身支度を整える。一夜とは言え、雪の中のテント生活ではすべての生活用具を自分の力で荷揚げしなくてはならないのは当然のことであるが30年ぶりの20数キロのザックは重い。久しぶりに相棒の塚本先輩の助けを借りなければ背中に担げないほどであるが、肩に喰い込む痛みが冬山の厳しさを思い出させてくれる。駐車場からの林道にも50cm以上の積雪があるがかすかに踏み跡が残されており、これを忠実に辿る。沢の橋を渡りいよいよ登りに掛かるが、積雪はさらに深まり、吹き溜まりではゆうに1mを超えるようになる。重荷にあえぎながらも一歩一歩とゆっくりとしたＯＢペースで歩を進める。二人だけの静寂の中に治部坂スキー場のﾘﾌﾄの音が時折聞こえてくる。3ピッチ目に無雪期のルートから、ちょっと左よりにまっすぐ登り詰めると横岳に到着した。早速、西側の絶好の平地にテントを設営。ビールで乾杯後、樹林の切れる位置まで出向き、南アの展望を心ゆくまで堪能した。夕食は二人では食べ切れないほどの肉いっぱいのすき焼きとアルコールで時の経つのを忘れるくらいであった。夜空には満点の星、眼下には平谷方面の灯が美しい。厳しい寒気の中の身も心も震えるくらいの感動の一夜であった。4～5人用テントが二人には広すぎて大広間に肩を寄せ合って寝た。

12月30日

出発を遅らせたのが失敗のもとであった。出発してしばらくすると踏み跡も消えここでワカンを着ける。我々の前にあるのは無傷の雪面のみとなり稜線通しでラッセルしながら進む。時折結びつけられている赤布にも導かれながらゆっくり進むも最低コル手前で、本日の登頂は時間的に無理と判断しこの地点を今回の最終到達点として引き返すことにした。我々のトレースした跡を登ってきた5人組みのパーティも単独行者も同じように引き返してきたのを知ったのは横岳のテン場に帰りついて間もなくのことだった。

＜ﾘｰﾀﾞ所見＞念願の一つだった冬の大川入山でのテント生活が体験できたことで今後の奥三河山域の冬山登山のためのノウハウを得た有意義な山行であったと判断する。ノウハウ例;①低山といえども冬山装備は必携　②日帰り時の引き返し時刻の決断(遅くても16時までに戻れるような)

＜フリースペース＞

山の紹介･ｽｹｯﾁ･ｴﾋﾟｿｰﾄﾞ･その他自由に

南ア北部の展望